

【10年後の文化芸術都市・京都の姿（イメージ）】

10年後、京都のまちはどうなっているでしょう？
人々の暮らしの様子はどうなっているでしょう？
あなたは、どうしているでしょう？

こんな夢を思い浮かべました。

京都のまちは、緑の山々に周囲を囲まれ、まちなかを鴨川、桂川などの清流が流れる美しい自然景観に今も恵まれ、また、社寺や町家などの歴史的な建造物と現代文化が溶け合い、10年前と変わらず、否、更にみずみずしく深みのある風情を醸しています。

かつて、世の中は、一様に効率的であることや便利であることを追求しました。その結果、まちの様子や人々の生活が、全国どこでもあまり変わらなくなり、都市の個性が失われていくことが心配されました。京都も危機に瀕しましたが、「このままでは京都がどこにでもあるまちになる」という状況が深刻になるにつれ、次第に市民は、「京都が京都であり続けること」に強い自負とこだわりを示し始めました。この自負とこだわりの拠り所となったのは、悠久の歴史や、美しい景観、そして世界に比類のない優れた文化芸術の蓄積でした。

京都らしい景観を守ることと合わせて、京都を、改めて文化芸術の魅力に満ちたまちにしたいという思いが、水面に生じた小さな水泡が連なり、波紋を広げ、やがては大きな波になるように、多くの人々の間に広がりました。そして、この思いのもとに、市民や芸術家の活動、企業等の支援、行政の取組の力が一つに重なっていきました。

今日も、まちのあちこちで、文化芸術がいきいきと息づくシーンが見られます。

地域では、地蔵盆や地域のお祭りを継承する活動や、住民の手による様々な文化的な催し・活動などが盛んに行われ、高齢者や障害のある方、子どもたち、あるいは古くから住む住民と新たに住み始めた住民等が共に集い、交流し、つながりを強め、地域に活気を生む機会となっています。

また、京都の景観の特徴でもある寺院・神社などの歴史的な建物や場所が積極的に活用され、伝統芸能の公演や、クラシックのコンサート、現代的な演劇・ダンスなどが、まちのあちこちで行われて、一年を通して市民や観光に訪れた人々を魅了しています。

まちなかでは、夕方頃、その日の仕事を終えた多くの人々が、忙しく過ごした一日に少しの華やきを添えるために、美術館やコンサートホールに足を運んだり、通りや町家、公共施設や会社のロビー等で行われている若いアーティストの演奏や作品展に足を止める姿が、日常的に見られます。

10年前に描いた文化芸術都市の理想像に向け、何もかもが上手く進んだわけではありません。しかし、10年前に、生活の便利さや次々と新しく提供される楽しさを享受しながら、なぜか疲れた表情を浮かべていた人々の顔や、まちの様子に、以前より、少なからず精気や活気がみなぎっているように見えます。

10年後、あなたの毎日の暮らしに今より少しでも潤いがあり、心が少しでも豊かになっていますように・・・。

京都文化芸術都市創生計画

概要版

文化芸術都市の創生に向けて

悠久の歴史に彩られた私たちのまち京都を、将来にわたって世界の人々を魅了し続ける文化芸術都市として創生するために、この度、今後10年間に市民の皆様とともに取り組む施策を盛り込んだ「京都文化芸術都市創生計画」を策定致しました。

京都を、日本文化の豊かさを象徴する美しい都市として、より一層輝かせることを目指して参りますので、積極的な御参画をお願い致します。



京都市長 山岡 拓也

平成19年3月
京都市